



④3 ラッキョウを育てよう

生育期間長く、多い雑草

ラッキョウは中国原産のユリ科の野菜です。乾燥に強く、肥料を吸収する力も強いので、砂地などやせ地でよく育ち強健です。水はけが悪いと腐りやすいため、排水の良い所で育てましょう。カリウム、ビタミンB1、硫化アリルを含み、食べると血液がサラサラになり、脳梗塞や心筋梗塞の予防になるなど体によい健康野菜です。

1. 品種

「らくだ」は、日本各地で栽培されている在来種。生育旺盛で、大球。種球1個から10～20個に分球します。ほかに中球の「八つ房」、小球で色白の「玉ラッキョウ」などがあります。

2. 畑の準備

植え付けの2週間前までに1平方メートルあたり苦土石灰60gを施し、土をよく耕します。その1週間後に、1平方メートルあたり堆肥2kg、化成肥料（成分8・8・8）100gを施して耕します。

3. 定植

9月下旬から10月上旬に種球を植え付けます。畝幅が30cm、深さ10cm程度の植え付け溝をクワで掘ります。株間は15cm、深さは7～8cmで1条に植え、覆土は種球の先端が少し露出する程度にします。覆土が厚すぎると発芽、初期の生育が抑えられます。大球を作るには1カ所に1球、小球を作るには3～4球植え付けます。

4. 追肥

追肥は定植1カ月後に追肥用の化成肥料を1平方メートルあたり20g施します。その後は、1カ月ごとに2回追肥をします。追肥の時に軽く土寄せを行い、球の緑化を防止します。

5. 除草

ラッキョウは生育期間が長く雑草の発生が多くなります。初期は土寄せも兼ねて手で取り、追肥時にクワで中耕、土寄せを行い、雑草の発生を防止しましょう。

6. 病虫害防除

病虫害の少ない野菜ですが、白色疫病やアブラムシやネダニなどの害虫が発生することがあります。

7. 収穫

翌年の5月上旬から6月にかけて収穫します。天気の良い日にクワで球を掘り取り、日陰で干して水洗いして食べます。



(鹿児島市都市農業センター)

令和2年10月8日(木) / 南日本新聞